

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2012.2 vol. 70

第4回緩和ケア研修会を開催して

「緩和ケア研修会を開催しました」 管理課長 大石 和男

平成24年1月8日・9日、厚生労働省通知に則った鹿児島医療センター主催の緩和ケア研修会が「かごしま県民交流センター」にて開催されました。研修参加者は医師20名、他職種15名、計35名でした。

研修内容は厚生労働省通知に準拠しなければならないので、日、月（祝日）の2日間、朝早くから、ぎっしりと盛りだくさんの内容でした。1日目の研修会が終了してから行われた城山観光ホテルでの懇親会はKKR札幌医療センター 瀧川千鶴子先生をはじめとする講師の先生方と研修生が講義の内容についてだけでなく、日頃疑問に感じている事などについて親しくお話をされていました。

研修を受けられた方は地域の緩和ケアが必要な方々の為に、研修会で得た知識を存分に活用されることを期待します。

また、スタッフとして参加された方々には、休日にもかかわらず心のごもった会の運営に携わって頂き、感謝します。

最後に、研修会の運営につきましてアンケート結果にて色々ご意見を頂いております。例えば、「研修場所の階が別々であった」「ランチョンドとゆっくり食事が出来ない」マイク、パワーポイント等の不備などです。この点は来年度の反省材料として今後、検討していきたいと思っております。

緩和ケア研修会に参加して 天辰病院 耳鼻咽喉科 谷本 洋一郎

今回、日頃からお世話になっている松崎先生からお誘いいただき、鹿児島医療センター緩和ケア研修会に参加させていただきました。

当院耳鼻咽喉科は鹿児島大学耳鼻咽喉科の関連病院であり、鹿児島大学から近いこともあって、入院患者様の多くは大学から御紹介いただいた患者様です。そのため重症患者様の入院も多く、場合によっては積極的治療が困難となった患者様の緩和ケアを目的に紹介をいただくこともあります。これまで自分が経験してきたことを基に患者様のケアをしてきたつもりでありましたが、今回この講習会に参加させていただき、自分の不足していた点、違う視点からの見方等、数多くのことを学ぶことが出来ました。その一方でこれまで自分が最期を取ってきた患者様を振り返り、自分の対応、病院の対応で患者様が本当に満足される治療ができたかを考える良い機会にもなりました。今回の講習会では講義を聞くだけでなく、様々な参加型の講習会で、テーマにそってグループで意見を出し合うワークショップでは他科の医師だけでなく、看護師や薬剤師など様々な分野の医療関係者が一つのテーマに対して意見を出し合うことで、いろいろな方面からのいろいろな意見を考えることができました。当院のように、医師一人、その他数名のスタッフで緩和ケアから取りまできられている施設もあると思えます。そうすると、どうしても気付かないうちに考え方、方針が偏ってしまう可能性もあり、今回の講習会で1症例に対して様々な意見を聞くことができたのは非常に良い経験でした。

また患者の立場を経験することで、医師の説明を客観的に聞くことができ、患者様がどういうことが聞きたいのか、それに対してどういう風に対応すれば患者として納得できるのか、多くのことを考えさせられました。医師にとっては数多くいる中の一人の患者様ですが、患者様にとっては主治医としては一人だけです。病気のこと、治療方針等しっかり説明しているつもりでも、他疾患でももちろんですが特に緩和ケアを必要としている患者様に対して、本当に患者様の立場から病気を診れていたか考えるよい機会となりました。

今回の講習会の経験を今後の診療に是非とも生かしていきたいと考えています。

緩和ケア研修会に参加しての感想 鹿児島大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 宮下 圭一

今回の緩和ケア研修会を受けるまでは、私の意識では、緩和ケアというと、まずはオピオイド等を用いたペインコントロールが大部分を占めていたと思います。日々の忙しい臨床の中で、おざなりになっていた精神的サポートや言葉の選び方、ひとり一人の社会的背景を考慮しながら総合的にケアしていくことの大切さや、医療者と患者の信頼関係が築かれなければ、どんな治療も十分な効果が得られないということをおぼろげに知ることができました。また実際に患者を演じたり、他の医師役の対応を客観的にみるという体験を通して、これまでの自分に足りなかったところ、もっとこうしたらいいのではないかとこのところを顧みるいい機会になったと思います。コミュニケーション能力は、得意、不得意ではなく、スキルとしての基本をしっかりとおさえることで上達できるものだという話がとても印象に残り、ひとり一人の患者に合わせた言葉の選び方や、言い換え、視線の位置など、とても勉強になりました。自分（医師）だけでなく看護師やケアマネージャー、栄養士や介護士などといった他職種とのネットワークを有効に使うことで、より質の高いケアが可能になるのだと思います。緩和ケア研修を受けてから現在3週間ほど経過し、今回学んだことを意識しながら日々の臨床に実践しているつもりです。また私事ですが、今回の研修会でたまたま中学のときの同級生と思わぬ再開も果たすことができ、これもまた大きな収穫でした。最後に2日間であれだけことが学べたのは、スタッフの方々の準備やサポートのおかげであり、とても感謝しています。本当にありがとうございました。



がん・脳卒中看護エキスパー

平成23年度の看護部教育は地域の拠点病院としての役割を担うため、新人研修やエキスパート研修を院内だけでなく地域連携病院の看護職員に受講してもらえるように企画しました。初めての試みではありましたが10月のがん看護エキスパート研修は3名、12月の脳卒中看護エキスパート研修は6名の研修生を迎えることができました。同じ志をもち臨み、研修生は親しく交流し楽しく充実した研修期間を過ごすことが出来たようです。

| 期 間 | エキスパートナース研修 | 研 修 生 | 院外施設名 |
|--------------------------|-------------|--------------|--|
| 10月12日 ～10月20日 7日間 | がん看護 | 院内6名 院外3名 | 田上病院1名(種子島) 川内医師会立市民病院1名 国立指宿病院1名 |
| 12月5日 ～12月13日 7日間 | 脳卒中看護 | 院内4名 院外6名 | 田上病院1名(〃) 北薩病院1名 川内医師会立市民病院1名 玉水会病院1名 大勝病院2名 |

研修生の声を掲載します。

川内市医師会立市民病院 福岡 晃代 さん(がん)

がん看護エキスパートナース研修を受けがんの基礎的知識を知り、貴院でのがん看護への取り組みをみせて頂き、問題点を共有し統一した看護と家族ケアについて知識を深めることができました。研修後からカンファレンス時のがん看護に関する意見を自信を持って伝えることができるようになり、また研修会を計画し、統一した看護が提供できるよう取り組んでおります。研修に参加させて頂き有難うございました。



社会法人義順 顕彰会田上病院 瀬古 まゆみ さん(がん)

ご縁があり、種子島の田上病院より参加致しました。初めて行く病院での長期研修に少し不安はありましたが、他の研修生やサポートスタッフの方々がとても丁寧にして下さり安心して受けられました。医師や専門看護師による講義と見学実習は、とても興味深いものばかりでした。特に迅速病理検査を見学できたことは幸運だったと思います。当院の看護師が、がん看護について意識を高めていききっかけになるよう活かして行きたいです。

国立病院機構指宿病院 尾野 千草 さん(がん)

研修により1週間じっくりとがん看護について学び考える事で、今までの自分の看護の振り返りができました。研修後伝達講習を行い、今後化学療法の副作用に苦痛を感じている患者様や家族への支援について取り組んでいこうと自己の課題も見出すことができました。これからもこの学びを生かし看護の充実に繋げていきたいと思ひます。



ト研修に院外研修生を迎えて

県立北薩病院 川野 梨香 さん(脳卒中)

自分の知識が未熟であり、今回の研修で自信を持つことが出来ればと思い参加させて頂きました。内容も詳しくて分かりやすく、今までの経験を振り返って「あの時はこうだったんだ!」と気付く事ができました。医療センターのスタッフのプロ意識の高さにも感激しました。今回学んだ内容を復習し自分の知識として蓄え、職場や後輩達に還元して行きたいと思っています。そして私は看護師というプロの仕事をしなければならないという事を忘れず、これからも頑張っていきます。



川内市医師会立市民病院 西川 尚子 さん(脳卒中)

7日間でしたが、本当に実りのある研修でした。学ぶ事も多く、他病院との情報交換もでき知識向上だけでなく、1人の人間として成長させて頂いたと思っております。今後も学んだ事を生かせるようにスタッフ指導に励み、又勉強も続けていきたいと思っております。今回の研修に参加させて頂いたことを本当にありがたく思います。

八反丸病院 郡山 香奈子 さん(脳卒中)

脳卒中の認定看護師ができてから、脳卒中看護に興味があり率先して受講希望をしました。研修を受け、疾患に対する知識がとても浅いと痛感し患者に申し訳ないと感じました。医師からとても分かりやすく講義をしてもらい理解する事ができ、看護の視点からも認定看護師より専門的な介入の方法を学ぶことが出来ました。病棟実習ではカンファレンスの充実していることやそのカンファレンスに医師が参加されており今後当院でも見直し検討していきたいと思っております。貴院で行われた治療・看護に感謝しながら当病院での看護ケアを行います。そのうち認定看護師をめざします。

大勝病院 岩下 結子 さん(脳卒中)

脳卒中の概論から看護、退院支援に至るまで非常にたくさんの事を学ばせて頂きました。外科的な治療と急性期での看護を学び、シームレスなケアを提供するために参加しました。外科的な治療では画像だけでなくOP室での見学実習までさせて頂き大変勉強になりました。急性期での看護ではチェックリスト等を用いてスタッフ一人一人が同じスキルで介入評価できる教育指導がされており看護記録から患者が良く見え、とても素晴らしかったです。今回の研修で学んだ事を病棟でも伝達し、看護の質の向上を目指していこうと思っております。

大勝病院 中島 朋子 さん(脳卒中)

講義を受けながら自分の基本的知識の不足を感じました。実際のOPの状況を見ることはとてもいい体験でした。医師がOP中にもかかわらず具体的に説明して下さり、看護師に育てて欲しいんだなと思いました。病棟実習では患者様の回転が速いながらもチームで情報共有が出来ていて同じ目標に向かってケアが出来ている所がすごいと思いました。医療センターより紹介された患者さんが当院の回復リハビリに紹介されて良かったと思われるケアが行えるよう研修で受けたことを活用し、返していこうと思っております。

社会法人義順 顕彰会田上病院 西川 友美子 さん(脳卒中)

脳卒中概論から患者・家族ケアまで7日間という短い期間で凝縮した内容の講義を学ぶことができた勉強になりました。自分に足りない知識は何か、エキスパートになるためには何が必要かを認識する事ができました。又自分が働いている病院との比較もでき、超急性期病棟でも患者のセルフケア援助が充足していることに関心し、当院での改善点も見出す事ができました。グループワークではリハビリ期の患者援助について深く考える事が出来、社会的支援についても学ぶことができたので。



9名の研修の感想を聞き、今回の研修を開催して良かったと実感しています。それぞれの分野で専門性を発揮しようという看護師が増えてきていますので、当院の3本柱である「がん」「循環器」「脳卒中」のエキスパートナース研修を今後も継続していきたいと考えています。

(文責 深川 俊子)

新任紹介



第2循環器科
レジデント

いのうえ かずひこ
井上 和彦

1月～3月の3ヶ月間、第2循環器科と血液内科でレジデントとして勤務させていただいております。当院での勤務は初めてで不慣れなことも多いですが、皆様の温かいご指導、ご鞭撻のもと日々多くのことを学ばせていただいております。今後もご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、診療の一助を担うことができるよう努力したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



第2循環器科
レジデント

そのだ こういちろう
園田 幸一郎

1月から第2循環器科に勤務させていただいております。当院での勤務は初めてであり、不慣れな点も多くありますが、先生方のご指導もあり、充実した日々を過ごさせていただいております。ひとつひとつの仕事を実践できるように、精進していきたいと思っております。



血液内科
レジデント

たぶち まさひろ
田淵 雅裕

1月からレジデントとして勤務させていただいております。田淵と申します。当院での勤務は初めてで不慣れな面もありますが、周囲の方々の助けをいただきながら充実した日々を過ごさせていただいております。若輩者であり皆様にご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、少しでも患者さまのお役にたてるよう努力したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

循環器合同カンファレンスへのお誘い

当院では、毎週月曜日午後6時から手術適用症例などについて、循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・リハ科など合同で症例検討会を開いております。オープンですので治療方針等について悩んでいらっしゃる症例がありましたら提示していただき、一緒に検討できればと思います。遠慮なくご参加お願い致します。

問い合わせ先

鹿児島医療センター 地域医療連携室

電話 099-223-1151 (内線 7344) FAX 0120-334-476

3

月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

脳卒中重篤化回避のためのモニタリングとケア

- 日 時：平成24年3月23日(金) 18時30分～19時30分
- 講 師：脳卒中リハビリ看護認定看護師 井手 智子
- 場 所：大会議室
- 対象者：医療関係者

※参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課(松尾)までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246



編集後記

今年に入り、鹿児島では雪こそ少ないものの、記録的な低温の日々が続いております。写真は先日、霧島に行った時の韓国岳です。天気の良い日が続いたため雪は積もってはいませんが、気温は-7度と南国鹿児島で人生で最も低い気温を体験することとなりました。

もう少し寒い日々が続きますが、体調に気をつけて業務に励みたいと思います。

(担当:井上)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 (代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246
http://www.kagomc.jp 脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】 濱田・今泉・永重・井上・神崎・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井
直通電話 ▶ 099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用 ▶ 0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

